



コロナ禍が子どもの発達に及ぼした影響を検証 本学心理学科において赤ちゃん調査を実施します！

京都光華女子大学（学長：高見 茂）では、健康科学部心理学科において、コロナ禍による赤ちゃんの発達の影響調査を行います。（担当教員：大谷 多加志 准教授）。

■ コロナ禍は子どもの発達にどのような影響を及ぼしたのか？

2020年からのコロナ禍において、世界各国では感染拡大予防を目的とした、学校休校や保育園の登園自粛、マスク着用の励行など、さまざまな社会規制が行われました。コロナ禍の当時から、それらの社会規制が子どもの発達にネガティブな影響を及ぼした可能性が危惧されており、世界的に数多くの調査が行われました。

結果は調査ごとに多少の違いがありますが、多くの研究では子どもの発達に対するネガティブな影響、とくに言語・コミュニケーション面における影響が報告されています。

本学心理学科が同志社大学赤ちゃん学研究センターと共同で行った、100名を超える乳児を対象に対面で実施した発達評価に基づいてコロナ禍の影響について検討した世界的にも数少ない研究においても、1歳台の子どもの言語発達にネガティブな影響が生じていることが確認されています。



調査結果の概要

■ 社会規制解除後に、コロナ禍の影響は残されているのか？

ここで重要になるのが、コロナ禍による影響が、社会規制が解除された現在においても残されているのか、それとも緩和、消失しているのかを確認することです。そこで本学において、2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行より後に出生した子どもを対象に対面での発達調査を行い、コロナ禍の最中に行った前述の発達調査と比較することで、コロナ禍の影響が社会規制解除後にどのように変化したのかを検証します。



調査室

■ アフターコロナ時代における子どもの発達について調査します

本調査では2023年5月以降に出生した乳幼児約100名を対象に発達調査を行います。ご協力頂ける方には、まず赤ちゃんの発達やその保護者の研究調査を行う「一般社団法人子どもと育ちのコホート研究・実践協会」が提供する赤ちゃん調査の予約システム「BOLD（Baby Online Live Database）」にご登録いただきます。次にご都合のよい日時でご予約頂き、本学キャンパス内にて対面での調査を行います。



BOLDの詳細はこちら

報道各社におかれましては、ぜひ、この活動について、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

◀取材に関するお問い合わせ▶

京都光華女子大学／短期大学部 入学・広報センター 担当：川島

[TEL] 075-312-1899 [FAX] 075-312-5594 [E-mail] hkk@mail.koka.ac.jp [URL] https://www.koka.ac.jp



Well-Being を実現する健康・未来創造キャンパスへ

京都光華では、これまで80余年にわたって仏教精神に基づく女子教育に取り組んできました。その根幹にあるのは校訓「真実心」。世界が目指す「持続可能な社会」に通じる重要な考え方です。私たちは、この理念によって立ち、すべての人が健やかに暮らせる“Well-Being”な未来の実現を目指し、学生一人ひとりに、そして地域に寄り添い、社会の要請に応えてまいります。